



〈雑録〉アダムスミスノ貨幣學説

松崎, 壽

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 11(4):612*-620

(Issue Date)

1911-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051782>



アダムスミスノ貨幣學說

商學士 松崎 壽

本年四月三田學會雜誌デハアダムスミス紀念號ヲ出版シテ政治學倫理學及經濟學上ヨリ見タル彼ノ學說ヲ評論シ大ニ此等ノ方面ニ於ケルミスノ功蹟ヲ闡明シタ、然ルニ亦本誌前卷ノ五

號六號ニ於テモ田崎學士ガエドウキンキャンナ
ン先生ノグラスゴー大學ニ於ケルスミスノ講義
ニ關スル敍說ヲ紹介スルナド近來アダムスミス
研究ニ對スル氣運ガ大分動イテ來タヨウニ見エ
ル、尤モ彼ノ祖國英吉利ニ於テモニコルソン敎
授ノ名著 *The project of Empire* ナド帝國主義ノ
勃興ニ連レテ古イ先哲ノ議論ヲ吟味セントスル
者ガ殖エテ來タコトハ爭フベカラザル事實デア
ル、實際捕ハレタル先人ノ偏見ヲ脱シテ永久的
生命ノアル古哲ノ學說ヲ眞面目ニ研究スルコト
ハ極メテ必要デアル、殊ニ今日ノ如ク經濟學ガ
幾多ノ分派ニ流レタ所謂混亂ノ時代ニアリテハ
其根本的研究ヲ爲スニハドウシテモ此源ノ泉ニ
廻ラチバナラヌ、余ハ素ヨリ貨幣銀行等ノ問題
ニ就テ多クノ智識ヲ有スルモノデハナイガ頃日
近着ノ *Quarterly Journal of Economics*, May,
1911ヲ繙イテ北米ジョンズホ。ブキンス大學敎
授ホーランダー氏ノ *The Development of the th-*

copy of money from Adam Smith to David Ricard
ト題スル論文ヲ一讀シタ、本文ハ千七百七十六
年出版ノスミスノ Wealth of Nations カラ千八百
十年世ニ出デタリカードーノ High price of Bu-
llion ニ至ル貨幣學說ノ變遷ヲ研究シタモノデ敍
說誠ニ詳細ヲ極メテ居ル、著者ハ別ニ最近リカ
ードーノ生涯及其學說ヲ述ベタル一書ヲ公ニシ
テ居ル位デアルカラ此方面ニハ餘程ノ講究ヲ積
ンダモノハ見エル、兎ニ角本論ハ多少目新ラシ
イ記事ニ富ンデハ居ルガ前後四十餘頁ニ亘ル長
篇デ目下ノ余ニ取りテハ到底其全部ヲ翻譯紹介
スルノ寸暇ヲ有セナイ、倚ツテ本論全體ヨリ見
レバ重要ナル部分デハナイカモ知レヌガアダム
スミスノ貨幣學說ニ關スル一節ヲ抄譯シテ同好
ノ士ニ示スコト、スル、之レ本誌第十卷五號所
載河津博士ノ「通貨說ト銀行說」ニ對スル補遺ト
モナリ得ルカト信ジタカラデアル。

ホーランダー氏ハ先ヅ「アダムスミスノ Wealth

of Nations (1776) ノ公刊以後リカードーノ
High price of Bullion (1810) ノ出版ニ至ル迄約三
十餘年間ニ英國ノ經濟思潮ガ何等ノ發展ヲ見ズ
シテスミスノ著書ハ益其版ヲ重テ千七百九十九
年既ニ十版ニ及ンダコトヲ述ベ進ンデ彼ノ後系
者ヲ舉ゲタ、曰ク政界ニ於テハダレンビル、學
界殊ニエヂンバラ大學ニ於テハダガルド、スチ
イアート、思想界ニ於テハフランシスホーナー、
ロードウエツヅ、ゼームスミル及トーマスチャ
ルマー等之レデアアル、尤モ此等ノ學者ノ中ニモ
スミスノ結論ニ對シテ多少ノ異論ヲ挾ンダモノ
ガ皆無デアツタト云フワケデハナイ (Hollander,
David Ricards, pp. 20-21)、例ヘバダガルトスチ
イアートノ如キモ忠實ノ祖述者タル方面ハ寧少
クシテ彼自身ノ獨特ナ評論ヲ下シタ者ト云フベ
ク亦ゼームスアランダーンモ穀法獎勵ノ價值ヲ
疑ツタ一人デアツタ其他ゼルミーベンザムハス
ミスガ重利禁止法ヲ排シタ議論ヲ駁シマルサス

ハ救貧法ニ關スルスミス説ノ缺點ヲ指摘シタ程
 デアル、乍然千八百十年迄ハ *Wealth of Nations*
 ノ權威ハ未ダ何等基礎ノ動搖ヲ見ル所ナラ千八
 百三年佛國ニテ出版セラレタジョンバブチスト
 セイノ *Traité d'économie politique* スラモ當時英
 國迄ハ其感化ヲ及ボスニ至ラナカツタ、但シマ
 ルサスガ初メテリガードー、ゼームスミル、マ
 カロツク等ノ學說ニ新經濟學派 *The new school*
 of political economy ノ名ヲ冠セテ特ニスミスノ
 學說ヨリ之レヲ區別シタノハ漸ク千八百二十四
 年ノ事ニ屬スルノデ、千八百三年當時ニアツテ
 ハ經濟學ノ舊派ト云ヘバ尙重商主義ノ學說ヲ意
 味シ、之レニ對シテヒュームハ重農學派及スミ
 スノ所說ハ所謂新派デアツタ。(Bonar, Malthus
 and his Work (4, 1885, pp. 275-281))

一般ノ經濟思潮ハ右ノ如ク極メテ幼稚デアツ
 タガ特殊ノ問題即此所ニ述ベントスル貨幣學說
 ノ方面ニ於テハ著シイ進歩ヲ爲シタト謂フテ宜

シイ、蓋彼ノ千七百九十七年ニ起ツタ銀行緊縮
 問題 *Bank Restriction* ハ從來ノ通説タルスミス
 ノ斷片的ノ不完全ナ學說ニ未知ノ試金石ヲ投ジタ
 モノデ之ヨリ世人ハ此方面ノ理論ニ多クノ注意
 ヲ傾ケルニ至リ、爲ニ貨幣學說ハ千七百九十七
 年カラ千八百七年ニ至ル間ニスミスノ說ヲ離レ
 テ一層根本的ノ變化ヲ受ケ。タトヘ細目ニ於テ
 ハ尙充分デナイトスルモ其概觀ハ先ヅ完成ノ域
 ニ達シ後ノ半世紀間經濟思潮ノ上ニ多大ノ印象
 ヲ殘シタ、而シテ其結果ハリガードーノ貨幣論
 トナツタコト疑フベカラズデアアル、乍然リカ
 ドーノ經濟思想ハ其根據ヲアダムスミスヨリ發
 シタモノデハナイノデ殊ニ其貨幣學說ハ *Wealth*
 of Nations ト異ルハ勿論更ニ一層進歩シタモノ
 デアル、夫ハ兎ニ角本論ハ先ヅアダムスミスノ
 貨幣論ニ就イテ研究ノ歩ヲ進メルコト、スル。
 今千七百九十七年以前ニ遡ツテ英國貨幣學說
 ノ系統ヲ見ルニ其權輿ヲ爲スモノハロツクデ其

ヨリハリス、ヒューム、ゼームス、スチュアート、モンテスキュー等ヲ經アダムスミスニ至ツテ初メテ確定シタモノデアル、尙世人ニハ餘リ其名ヲ知ラレテ居ラスガボーハン Vaughan、バーボン Barbon、ペッティー Petty、ダベンント Davenport、ノース及バークレー Berkeley 等ノ學者ガ此間ニ輩出シテ貨幣學說ニ關スル特殊ノ部門ヲ開拓シ亦ハ抽象論ヲ實例ニ適用シタ等ノ功ハ決シテ掩フコトハ出來ヌ、然ルニフランシスホーナー、ロードウエツプ等ノ後世ノ學者ガ Wealth of Nations ノ有名ナ第五章ヲ研究ノ發足點トシテ漸次其系統ヲスチュアート、ヒューム、ハリス及十八世紀ノ自由學派ニ及ボシタカラ遂ニ此逕路ガ何時トナク學統ヲ構成スルコト、ナツテシマツタ。

アダムスミスノ貨幣論ノ大系ハ頗ル明瞭デア
ル (Wealth of Nations (1776) Book I, chap. V.)
曰ク物々交換ノ不便ガ或特殊ノ交換媒介物ヲ要

求シタノハ非常ニ古キ時代ノコトデアアルガ若シ
モ斯ノ如キ媒介貨物ニシテ價格ノ變動頻繁ナリ
トセバ之レヲ以テ正確ナ價值ノ尺度トスルコト
ハ出來ヌ、此所ニ於テカ吾人ノ長イ經驗ハ遂ニ
貴金屬ヲ以テ貨幣トスルノ最モ適當ナルコトヲ
教ユルニ至ツタ、而シテ二箇ノ金屬ヲ貨幣トシ
テ用フル場合ニハ一方ヲ本位トシ他方ノ之レニ
對スル價值ノ比ハ市價亦ハ法律ニヨツテ確定セ
ラル、モノデアアル、鑄造貨幣ノ購買力ハ其表記
價格ニ關ハラズ其實質ニ倚ツテ決定スベク然カ
モ品位ノ異ル二箇ノ貨幣ヲ同一ニ使用スルコト
ハ良貨ヲ貯藏セントスル一般ノ傾向ニ倚ツテ破
レルコトハ明ラカデアアル、本位貨幣ノ價值ハ交
換ノ度數及其頻繁ノ度ニ正比例シ亦一方ニハ其
量數及流通ノ速度ニ逆比例シテ變動スル、而シ
テ外國貿易ハ本位貨幣ノ分配ヲ惹起スモノデア
ルカラ人爲的ニ或一國ニ於ケル貨幣ノ蓄積ヲ増
加セシメントスルヤウナ政策ハ無益ニシテ且全

全誤謬ト謂ハチバナラヌ、亦貨幣價值ノ變動ハ社會ノ或階級ニ漁夫ノ利ヲ與ヘテ他ノ階級ヲ犠牲ニ供スルモノデアル即其騰起ハ債務者ノ利益ヲ傷ツケ下落ハ債權者ヲ害スルノ結果ヲ齎ス、地金ノ市價及法價ト外國爲替相場ノ暴落トノ間ノ開キハ鑄貨ノ粗惡ナルニ倚ルモノデアツテ其ヲ改良スレバ速カニ復舊シ得ルモノデアル。

紙幣ニ關スルスミスノ説明ハ同様ニ極メテ明白デアル之レヨリ先十八世紀ノ中頃彼ノ先輩タルヒューム及ハリスガ蘇國ニ於ケル銀行券ノ濫發ヲ目撃シテ斯ル準貨 Counterfeit moneyノ缺點ヲ指摘シタコトガアツタ、然ルニスミスノ學說モエール銀行ノ倒産ノ爲ニ總テノ銀行券ガ全ク不人望トナツタ時勢ノ反影ニ倚ルモノデアツテ (Rae, Life of Adam Smith, 1895. pp. 253-255, Cannan's note to his edition (1904) of W. n. vol. i. p. 296) 彼ノ動機ハ銀行券制度ノ必要ヲ明ラカニシ且其運用ヲ強固ナラシメントスルニ外ナラ

ヌ、從ツテ彼ノ論調ハ著シク「クラシツク」デア
ル、曰ク貨幣ハ社會流通資本ノ一部ニシテ其維
持ニハ相當ノ經費ヲ要スサレバ金銀ノ代リニ紙
幣ヲ使用スルコトハ一層低廉ニシテ且同様ノ便
宜アル要具ヲ以テ高價ナル者ヲ節約シ得ルコト
デアル、而シテ各種ノ紙幣ノ内最モヨク此目的
ニ適スルモノハ一覽拂ノ銀行約束手形ヲ推サチ
バナラヌ (Wealth of Nations, 1776, vol. i. pp. 345.
350)、乍然或一國ノ流通具トシテ吸收シ得ベキ
紙幣ノ總額ハ決シテ現ニ流通シ得ル金屬貨幣ノ
量ヲ超過スルコトノ出來ルモノデハナイノデ
(Ibid., vol. i. p. 377) 通貨ノ過剩ハ必ズヤ金銀ノ流
出ヲ惹起サナケレバ止マナイ (Ibid., vol. i. p. 352)
此等ノ事實ハ既ニ英蘭銀行及蘇蘭銀行ノ實例ノ
示ス所極メテ明々白々デアル、事情斯ノ如クデ
アルカラ正當ナル銀行政策ハ或特殊ノ銀行ノ發
行ニ懸ル信用證券ノ高ガ何等ノ用途ニ供セラレ
ズ亦ハ何時ニテモ需要ニ應ジ得ベキ準備貨トシ

テ蓄積セラル、顧客ノ資本額ヲ超過セザルヤウ務ムルニアル (Ibid. vol. i. pp. 364, 367, 377)。

此議論ハ勿論兌換券ニモ亦關係シテ居ル、乍然スミスハ英國政府ニ比スルモ其確固タル地位ガ毫モ遜色ナキ英蘭銀行ガ後年其兌換ヲ停止スル如キ事ノアルベシトハ殆ド想像セナカツタモノ、如ク (Ibid. vol. i. p. 387)、兌換ノ困難ナル場合亦ハ其ノ甚ダ怪シゲナル場合ハ蘇蘭銀行組合ノ選擇約款 optional clause ヨークシャイア及亞米利加殖民地ノ紙幣發行位ナルベシト早合點シタ、兎ニ角何レニスルモ兌換ノ困難ナルニ至レバ此所ニ初メテ所謂金紙ノ差ヲ生ジ其結果ハ正本位國トノ貿易ヲ不利ナラシメルコトハ彼ノ亦先見シタル所デアル (Ibid. vol. i. pp. 394-395)。

Wealth of Nations ニ於ケル貨幣學說ハ右ノ如ク著シク進歩シタモノデ交換ノ媒介價值ノ尺度トシテノ貨幣ノ機能、兩本位制ノ不可能、グレシヤムノ法則、貨幣ト物價トノ關係、貨幣價值

變動ノ債權者及債務者ニ及ボス影響、紙幣ノ理論等ハ明瞭ニ説明サレテアル、尤モ此等ノ說モ今日ヨリ見レバ決シテ嶄新奇拔ナモノデナイコトハ勿論デアルガ十八世紀ノ昔既ニ此邊迄洞察シタノハ實ニ多大ノ進歩ト謂ハチバナラヌ。

乍然アダムスミスノ學說モ亦多クノ缺點ヲ免レヌ、即一國ガ有スベキ貨幣ノ量如何及貨幣ノ過不足ヲ知ル兆候及準繩如何等ノ問題ニ對シテハ彼ハ未ダ筆ヲ染メテ居ラヌ、大凡或特定ノ時期及國家ニ於ケル貨幣ノ量ハ習慣的ニ定マルモノデ人爲ニ倚ルモ或ハ周圍ノ事情ノ變化ニ倚ルモ之レヲ増加セシムルコト不可能デアルトハ重商主義及貿易均衡說ニ反對スル總テノ議論ノ一體ヲ爲ス所デアツテスミスモ亦幾多ノ實例ヲ擧ゲテ此說ヲ固守シタ、然ルニ一國ガ有スベキ貨幣ノ分量如何トノ一層進ンダ問題ニ對シテハスミスハ單ニ現實ノ需要 effectual demand ニヨツテ決定スベシト云フガ如キ曖昧模糊タル文字ヲ

用ヒテ精細ナル解答ヲ與ヘテ居ナイ、勿論一國ノ土地及勞力ノ成果ヲ夫々特定ノ消費者ニ分配スルニハ年々或一定量ノ貨幣ヲ要スルコトハ明ラカデアルガ其生産物ノ價格ト貨幣ノ分量トガ幾何ノ比例ヲ保ツベキモノデアルカノ問題ニ對シテハスミスハ雷從來ノ學者ノ解釋ヲ引抄シテ後者ハ前者ノ五分ノ一ナリト云ヒ或ハ十分ノ一ナリト云ヒ或ハ二十分ノ一三十分ノ一ナリト論ジタノミデ毫モ獨創ノ見界ヲ下シテ居ラス(Ibid., vol. p. 356.)

アダムスミスハ亦蓄積ニ倚ツテ貨幣ノ供給ヲ増加セント試ミタ西班牙及葡萄牙ノ失敗ヲ屢々引用シタ、亦地金ノ慢性的減少ニ關シテハ英蘭銀行及蘇蘭銀行ノ實例ヲ舉ゲタ、乍然此等ノ事件ハ一國ノ吸集シ得ル貨幣ノ量ガ外部ノ事情ニ倚ラズ内部ノ交換ニ倚ツテ一定ノ額ヲ保ツモノナリトノ彼ノ推定ヲ確メタルモノニ過ギヌ(Ibid., vol. i. p. 363)、要スルニ、一國ノ貨幣量及其

過剩ノ證明ニ就テスミスガ何等ノ説明ヲ與ヘナカツタコトハ彼ヨリ以前ノ經濟學者ガ既ニ貴金屬ノ地的分布論 territorial distribution ヲ唱ヘタコトヲ憶ヒ較ベテ見ルト誠ニ遺憾デアル、斯ノ如キ經濟學者ノ名ハ既ニ千八百十年リカードーガ之レヲ舉ゲタ、即ノース、ロツク、バーラレー、キャンチイロン、ベツチイー、及バーボン等ガ重商主義者ノ正金集積策ヲ非難シ或一國ノ貨幣ノ量ハ國民ノ富源ノ或割合ニ近寄ルベキコトヲ極言シタ、ヒューム及ハリスニ至ツテハ此等ノ議論ハ一層明白ナリ且正確ナモノトナツタ、尤モ彼等ハ直接ニ貨幣ノ理論ニ觸接シタ譯デハナク全ク重商主義ノ謬說ニ對スル駁撃ノ積リデアツタ、ヒューム曰ク貨幣ハ水ノ如シ Money is like water(Hume, Essays of the Balance of Trade)ト而シテ彼ノ說ハ Essay upon Money and Coinノ著者ハリスニ倚ツテ一層發展ノ域ニ達シタ、兎ニ角ヒュームノ說ハ廣ク流布セラレタコトハ

事實デアルケレドモ全ク反對ヲ受ケズニ終ルコトハ出來ナカツタ、其後久シカラズシテゼームス、スチイアートガ貨幣ト物價トノ關係及貨幣準論ニ關スルヒユームノ說ヲ烈シク攻撃シタ而シテ此駁論ガアダムスミスノ注意ヲ惹イタヤウニ見エル、スチイアートハ生産物ト貨幣ノ分量トノ間ニ確實ナル比例ヲ保タシメルコトガ即チ施政家ノ本務デアルト主張シテヒユームノ地の分布論ヲ排斥シタ(Steuart, *An Inquiry into the Principles of Political Economy* (1767,) vol. i, p. 375-46.)、乍然積極的方面カラ見レバ彼ノ說ハ僅ニ次ノ斷定ヲ爲シ得タニ止マリ殆ド進歩ノ跡ヲ見ルコトガ出來ヌ(Ibid., vol. i, p. 376)

It is impossible to determine the proportion of coin necessary for carrying on the circulation of a country, especially of one where neither loan, or paper credit, that is the melting down of solid property, are familiarly known.

アダムスミスニ至ツテハヒユーム或ハスチイアートニ倚ツテ少シモ支配セラレズ彼ハ唯事實有ノ儘ヲ傳ヘキタノミデ理論ニ觸レテ居ル處ガ殆ドナイ、蓋當時ハ未ダ一層進ンダル研究ヲ爲スベキ實際問題ニ乏シカツタ事ハ事實デアアル、實ニ當時ノ英國ニハ貨幣ノ過剰モナケレバ亦缺乏モナカツタ、從ツテスミスハ當面ノ貨幣問題ヨリハ寧ロ古イ重商主義ノ缺點ヲ矯正スルニ務メ西班牙ノ苦イ經驗ヲ屢々引照シタ、而シテ兌換券ニ就テハスミスハ良好ナル紙幣ノ發行ハ同額ノ正金ノ轉換シタモノデアルトノ見解ヲ有シテ居ツタ(*Wealth of Nations*, 1776. Book IV, chap. ii, vol. i, pp. 388-400)此意味ニ於テハヒユームモ亦既ニ千七百五十二年ノ頃論ジテ曰ク兌換券ハアムステルダム銀行ノ如ク同額ノ地金ヲ基礎トシテ發行シタ場合ニ於テノミ社會ノ利益デアアル但過剰ノ發行ハ正金ノ相當額ヲ驅逐スルガ故ニ有害デアルト、ハリスモ亦千七百五十八年ノ著

書ニ於テ地金ノ蓄積以上ニ銀行券ヲ發行スルコトハ次ノ二點ニ於テ危險デアルト反覆論難シタ即チ其一ハ自然ノ平準以上ニ流通貨幣ノ量ヲ増加スルコト及其二ハ有事ノ日ニ當ツテ銀行券ノ信用ヲ失墜セシムル怖アルコト是デアル(Essay on Money and Coins, Part I, P. 101)。

要スルニアダムスミスガ一國ノ貨幣供給ノ問題ニ於テ論ゼントシタコトハ人爲的ノ貿易或ハ殖民地ノ開拓ニ倚ツテ正金ヲ蓄積スルノ無益ナルコト及一覽拂銀行券ノ過度ノ發行デアル、彼ハ此出來事ニノミ議論ヲ限リ亦其理論ヲ説明シタ、憶フニ英國ノ通貨ガ兌換銀行券ノ絶エザル發行ニ倚ツテ増大スルガ如キコトアリ得ベシトハ而シテ其結果積極的立法ノ基礎トシテ貨幣ノ正當ナル要求ニ對シ或理論的決定ヲナサチバナラヌトハスミス及其直接ノ後繼者ガ決シテ夢想ダモシナカツタ後ノ發展ニ屬スルノデアアル。

附言、本誌第十卷第五號「通貨説」銀行説ニ於テ河津博士ハ

「アダムスミスノ兌換券ニ關スル意見ハ明瞭チ缺クモノアリ」ト論ジテ居ラレル、然ルニホーランド氏ハ In the matter of paper money, Smith's expressions were no less definite ト斷定シテ居ル此邊如何ノモノニヤ、先輩ノ指教ヲ賜ハリ度イモノデアアル、兎ニ角冒頭斷ツタ通り予ハ貨幣銀行等ニ關シテハ殆ンド智識チ缺イテ居ルノテ誤譯謬想素ヨリ少クナイデアラウ、切ニ讀者ノ寛宥チ乞フ次第デアアル。